

曹洞宗総合研究センター
教化研修部門

令和 9 年度

研修生・研究生
募集要項

曹洞宗総合研究センター教化研修部門は、研鑽を積もうと志す若い宗侶に向けた人材養成機関です。

伝統宗学や仏教学、そして宗教学や文化諸科学といった隣接分野の研究成果を学際的に学びながら、現代から未来への社会に貢献することの可能な人材を打ち出していくことを目的としています。

大学で習得した仏教の専門知識をさらに実践面で活かす方策を学びたい、説法や布教教化の真髓を体得したいと考えているあなたこそ、教化研修部門で学ぶにふさわしい人です。

各分野のトップレベルの講師陣のもと、少人数制で 3 年間にわたる体系的な学習システムによって、学ぶことができます。研修部 3 年間の後、修了者にはより深く学ぶことができる研究部が開設されています。



曹洞宗宗務庁



曹洞宗宗務庁第三分館
曹洞宗総合研究センター

※曹洞宗宗務庁建替工事のため、移転の可能性があります。



令和 8 年度曹洞宗総合研究センター入所式

研修内容

講義

1 年度

通年

釈尊論

後期

坐禅論

前期

曹洞宗と人権

宗教と現代・社会

国際布教論

寺院活動論 1（布教理論）

法話実習 1

3 年度

前期

現代教団論

葬祭供養論

寺院活動論 2（教化活動）

法話実習 2

後期

禅宗史

曹洞宗教団史 2（近代～現代）

2 年度

通年

道元禅師論

後期

修証義論（四大綱領）

瑩山禅師論

仏教ボランティア

前期

日用經典

曹洞宗学

曹洞宗教団史 1（中世～近世）

集中講座

梅花流詠讃歌

仏教聖歌

主な年間行事

4 月 入所式

5 月 個人研修・研究年間計画書提出

6 月 大本山總持寺伝光会摂心
（1 年度）

布教師養成所第 1 期（2 年度）

9 月 幼児伝道実習

個人研修・研究中間報告書提出

10 月 布教師養成所第 2 期（2 年度）
大本山永平寺眼蔵会（1 年度）

11 月 総合研究センター学術大会

2 月 布教師養成所第 3 期（2 年度）
イベント伝道実習

3 月 修了式

個人研修・研究年間報告書提出



各種実習

◇ 高齢者福祉施設法話会

高齢者施設 4 か所において、法話伝道を実施しています。この実習では、法要進退・法話・梅花流詠讃歌・レクリエーション等の技能の習得とともに、在園者とのふれあいを通して、対機への理解を深めることを目的としています。



◇ 伝道実習

幼稚園・保育園へ赴き、演劇やレクリエーションを行う中で、幼児への伝道の実際について学びます。また、現代社会の中でどのように仏教を伝えていくか、効果的なテーマ設定や集客方法等について研修します。



◇ 坐禅指導（Shojin 坐禅教室）

一般の人びとに対する坐禅指導の手法を坐禅会の企画・運営を通じて学びます。



◇ ウェブサイトの運営・伝道冊子の発行

対外的に活動をする際に「Shojin-Project」の名称を用いています。ウェブサイトの運営ではコラムの掲載やイベントの情報を発信し、インターネットを活用した布教伝道方法を学びます。また、伝道冊子を発行し、その編集作業の技能を習得します。



◇ 要請に応じた教化の現場への参画

曹洞宗宗務庁などからの要請に基づき、それぞれの機関が運営する各種教化活動（アース禅堂、禅と食体験講座、テレホン法話、講演会など）に協力する中から、その実際と手法を学びます。



◇ 学術大会

毎年1回、宗門内外を問わず、教化や宗学に関連する諸問題をテーマとした研究を発表する学術大会が開催され、研究発表の場が設けられます。
研修部は3年度に1回、研究部は毎年度発表することになります。

◇ 個人研修

3年間の研修期間中、研修生・研究生は自分の問題意識を掘り下げて研修していくために、指導講師からテーマに沿った個別指導を受けます。その研修で積み重ねた成果が、年間レポートとしてまとめられ、学術大会での発表、『学術大会紀要』への掲載につながっていきます。



◇ 両大本山での研修（大本山永平寺眼蔵会・大本山總持寺伝光会摂心）

宗典の参究と叢林の規範を学ぶため、1年度は大本山永平寺眼蔵会、大本山總持寺伝光会摂心のため上山します。

曹洞宗総合研究センター役員・研究員

(令和8年7月1日現在)

所 長	永井政之	
副 所 長	下室覚道(近現代教団研究部門兼職)	
事 務 局 長	山本雅彦	
顧 問	志部憲一	
常任研究員	未来創生研究部門	久保田永俊 宇野全智
	近現代教団研究部門	新井一光
	宗 学 研 究 部 門	小早川浩大 秋津秀彰
	教 化 研 修 部 門	関水博道 南原一貴

曹洞宗総合研究センター 教化研修部門 講師

(令和8年7月1日現在)

秋津秀彰、石井清純、石川光学、伊藤良久、宇野全智、大菅俊幸、奥野光賢、尾崎正善、鬼頭広安、来馬正行、久保井賢丈、佐藤秀孝、島蘭進、菅原研州、関水博道、館盛寛行、中野尚之、永井政之、南原一貴、長谷部八朗、晴山俊英、宮地清彦、弓山達也、横山俊顕

深澤亮道（令和4年研究部修了）

仏教や禅の教えに救われた経験から、より深く仏教や禅を学び、多くの人に伝えたいという強い思いから、ここで学びたいと思いました。

充実した講義のほかに、実習が豊富に行われており、より実践的な教化の手法を学ぶことができました。理論だけでなく、現場での実践を通じて学びを深めることで、禅の教えをどのように現代社会に適応させるか、どのように人々に伝えるかについて、深い理解とスキルを得ることができました。

現在は僧侶として、企業や個人を対象に、禅や仏教の教えを広めるための講演やワークショップを行っています。また、オンラインでの活動も積極的に行い、現代の多様なニーズに応えるため、柔軟に多岐にわたる活動を展開しています。

久松彰彦（令和5年研究部修了）

私は布教などの実践に関心を持っており、大学院の修士課程を終える頃に同安居の友人から誘われたことがきっかけで入所いたしました。宗門系の大学を出ておらず、何を学ぶべきかについて一から教えていただける講義は非常にありがたいものでした。

法話を作る機会もたくさんあります。実演後には反省会があり、なごやかな雰囲気ではありながらも、皆が忌憚ない意見を出し合いました。「話すのが速い」「手の動きが多い」など聞き手目線からの指摘をいただけたことは、改めて貴重な機会であったと思います。

今でも法話で悩んだ時には教化研修部門で共に研修をした仲間に相談しています。布教・教化に関して意見を交わし合える法友に出会えたことが一番の財産です。

山岸弘明（令和3年研修部修了）

「ほとけ」を子ども、おとな、お年寄りそれぞれに分かりやすく伝えることができますか？という問いかけが、私が曹洞宗総合研究センター教化研修部門を志望するきっかけでした。

当時、私は大本山總持寺で修行しており、仏教系大学の出身ではなかったため、その毎日が初めての連続であり、この生活の先に僧侶としての成長があると思っていました。ある日、修行僧を対象とした入所説明会で、講師の先生からその問いかけがあり、説明できない自分に勉強不足を痛感しました。良き僧侶になるためには行ずるだけでなく学ぶことも重要だと気づき、入所を希望しました。

入所後は多くの仲間と共に研鑽を積み、その経験は師寮寺に戻った今でもお檀家さんとの接し方に活かされています。

岩迫祐都（令和4年研修部修了）

私は入所する以前、法話や坐禅会などの布教活動を始めようとした時、まず何から始めたらいいのだろう？と迷っていました。

そのような時に総合研究センターの冊子を読み、諸先輩方の活動を知り入所を決意いたしました。

私が研修生として大きく学んだことの1つをご紹介します。所属していました一般コースでは1ヶ月に数回、高齢者施設へ訪問し法要・法話・レクリエーション等、入居者の皆さんと交流をするカリキュラムがあります。初めて入居者の皆さんの前で法話をする機会があり、私は人生の先輩方の前で何が話せるのだろう？と訪問する前日まで自問自答をしていました。しかし、熱心に私の話に耳を傾けてくださり法話が終わった時には温かい拍手をいただけたのです。

その中で改めて感じたことは、入所する以前に抱いていた漠然とした布教に対しての迷いやイメージが実際に行動に移すことにより、自分の自信にもつながっていくことを実感いたしました。

現在は副住職として葬儀や法事などの師寮寺補佐、山口県宗務所の書記、山口県曹洞宗青年会の広報部として活動しています。

フェルナデス浄賢（令和5年研修部修了）

曹洞宗総合研究センター教化研修部門国際布教課程の研修生としての3年間は、私にとって非常に貴重な経験となりました。多くの僧侶との繋がりを築き、仏教史や禅宗史、お経や法式などについて学ぶことができました。また、わからないことをどのように研究すればいいのか、その勉強や研究方法も身につけることができました。様々なイベントの企画から運営までを経験し、坐禅会の運営と参禅指導についても多くを学びました。特に印象的だったのは海外研鑽僧としてアメリカで3ヶ月間の研修を行ったことです。アメリカ人僧侶だけではなく、世界中の僧侶と交流する機会をいただいたことは、修行道場と並ぶ貴重な経験でした。この3年間で得た経験はこれからの自分の布教活動においての宝物です。

吉長洸大（令和6年研修部修了）

私が曹洞宗総合研究センターへの入所を志した理由は、仏教系の大学ではなく一般の国立大学で学んでいたこともあり、僧堂での修行中に仏教に関する知識や勉強が足りていないと感じたからでした。入所してからは専門的な講義を受けることができ、それをアウトプットできる環境のおかげで、多くの経験をさせていただきました。何より、共に研鑽できる若い仲間がいることが最大の魅力かもしれません。個人的に一番伸ばせたと思うのは、クリエイティブな力と法話です。現在は地元に戻り、「いずも曹青」の一員として歩みはじめてばかりでございます。今後は学んだことを存分に活かして、地方寺院を盛り上げていきたいと考えています。

募集要項

研 修 生

3 年の研修期間中はカリキュラムに専念し、将来は布教教化に携わる人を募集します。

1. 応募資格 曹洞宗総合研究センター規程第 17 条に規定する者
ただし、国際布教課程を志願する者は、本宗の教師となることができる期間の安居を了じた者でなければ、受けることができない
2. 募集課程 (1) 一般教化課程 (2) 青少年教化課程 (3) 国際布教課程
各課程とも若干名
3. 研修期間 3 年（規定による研修生奨学金月額 20 万円を給付。）
※ただし、所得税等の課税対象となります。
4. 選考方法 筆記試験および小論文・面接
ただし、国際布教課程志願者については、別途英語試験を課す
5. そ の 他
 - ・筆記試験出題範囲
『曹洞宗宗憲』『仏教概論』『釈尊伝』『道元禅師伝』『瑩山禅師伝』
(曹洞宗ブックセンターにて入手可 0120-498-971)
※『曹洞宗宗憲』は『曹洞宗宗制』に含まれています
その他参考書籍『仏教の基礎知識』『仏教要語の基礎知識』
(水野弘元・春秋社) など
 - ・出願書類
 - ①入所申請書、履歴書 各 1 通
※志願者は所定の用紙を総合研究センターへご請求ください
 - ②大学学部成績証明書、卒業証明書または卒業見込み証明書 各 1 通
※大学院修了者は、大学院・学部両方の成績・卒業（修了）証明書を添付
複数学部に在籍した者は上記書類をすべて添付してください

研 究 生

1. 応募資格 曹洞宗総合研究センター規程第 16 条に規定する者
2. 研修期間 2 年（規定による研究生奨学金月額 25 万円を給付）
※ただし、所得税等の課税対象となります。
3. 選考方法 小論文および面接
4. そ の 他 出願書類
 - ①入所申請書、履歴書 各 1 通
※志願者は所定の用紙を総合研究センターへご請求ください
 - ②大学学部成績証明書、卒業証明書または卒業見込み証明書 各 1 通
※大学院修了者は、大学院・学部両方の成績・卒業（修了）証明書を添付
複数学部に在籍した者は上記書類をすべて添付してください

○出 願 締 切：令和 8 年 11 月 6 日（金）当日必着

○選考試験日：令和 8 年 11 月 30 日（月）

○オンライン説明会：令和 8 年 9 月 28 日（月）※要申込
令和 8 年 10 月 16 日（金）※要申込

○選 考 会 場：曹洞宗総合研究センター

東京都港区芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁第 3 分館

※日程の詳細は、出願締切後に各自に送付いたします。

出願書類請求・問い合わせ

曹洞宗総合研究センター

〒105-8544

東京都港区芝 2-5-2

曹洞宗宗務庁内

TEL: 03-3454-7170 (直) FAX: 03-3454-7171

E-mail: soken@sotozen.jp